

2021年12月28日

各位

会社名 株式会社シャノン  
代表者名 代表取締役社長 中村 健一郎  
(コード番号:3976 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役 経営管理担当 友清 学  
(電話番号：03-6743-1551)

2021年10月期 通期決算に関連した質問へのご回答

Q1	ジクウは現在どのくらいの受注がありますか
A1	フェアディスクロージャーの観点もございますゆえ、具体的な受注件数についての回答は差し控えさせていただきますが、ジクウ設立時から想定していたとおり、リリースしたサービスについては、一定の御評価、興味、関心を皆様から頂いている状況ではございます。
Q2	2022年10月期にEM（ジクウ）売上が2億円ほどを予定されておりますが、こちらは現時点での顧客からの契約および申し込みを加味されての数字という認識で合っておりますでしょうか
A2	受注済みの案件のみで予算を構成しているわけではありませんが、ここまで認識している市場のニーズや既存のお客様とのディスカッション等の過程で当社が得た感触も踏まえて、目標として予算を組んでおります。 予算を達成できるようしっかりと足運びしていきたいと気を引き締めて臨んでまいります。ポテンシャルは予算以上のものがあるとも考えておりますので、今後のジクウにご期待ください。
Q3	2021年10月期に買収を行ったヴィビットインタラクティブ株式会社について、CMSソリューションと既存サービスの親和性はありますか
A3	10/21に開示しました「ヴィビットインタラクティブ株式会社のM&Aについて（CMSビジネス）の補足説明資料」に記載しましたとおり、当社の既存サービスであるMAサービスとCMSを組み合わせることで、MAサービスの更なる競争力の向上を見込んでおります。MAサービスの導入は主にデジタルチャネルを最大限活用することが狙いで、MA導入時にWebサイトごと作り直ししたり、新しいWebサイトを作成する場合があります。この2つが一体化したサービスのほうが導入をしやすいといったお客様のニーズもあると考えております。 実際にお客様からの問い合わせも増加しており、具体的な商談も進み始めております。以上のことから、ビジネスとしての親和性は当初想定していたとおり、非常に高いと考

	えております。
--	---------

Q4	<b>2022年10月期について、上期は赤字着地のようだが、これは具体的に何を要因としてこの予想を立てているのか</b>
A4	2022年10月期については当社で初めて、上期の業績予想値を出しております。具体的には「2021年10月期通期決算補足説明資料」のP22に記載の通りであります。上期売上については、直近のイベント開催状況（オフライン（リアル）イベントの開催状況等）を踏まえて計画値を策定しております。なお、マーケティングオートメーションサービスについては、21期に新規で積み上げたサブスクリプション売上をベースに順調に推移することを想定しています。一方で、費用面に関しては、当社は期の前半に中途採用（入社）を進める計画としており、近年採用を強化している営業人員についても同様でございます。営業人員については、入社後すぐに予算を持つことはなく、入社後に営業研修を実施し、実際に成果を出すまでには数か月以上の時間を要するため、費用としては期首から発生するものの、それに対する収益は下期からを見込んでいることなどが主要因でございます。

Q5	<b>10/26リリースの藤井寺市、12/16リリースの蒲郡市などの自治体とのリリースを出していますが、何のサービスを提供し、今後どういった展開を想定されているのですか</b>
A5	ご指摘のとおり、2021年10月期から公共ビジネスの推進を進めており、実際に2件の市区町村と協定締結を行いました。その背景には、官公庁においても2021年9月にデジタル庁が設置されるなど、DXの推進が進んでいること、自治体の施策においてもデジタルマーケティング活用の観点が増えてきていることなどがございます。そういった自治体に対し、当社のMAサービスを提供することにより、地方自治体の課題の解決にも役立つものと考えております。

Q6	<b>なぜジクウは子会社になっているんですか</b>
A6	子会社の単独上場も含めたファイナンスの観点、シャノン以上の成長スピードをスタート時点からしっかりと意識してすすめるため子会社としてスタートいたしました。

- 本発表において提供される情報は、いわゆる「見通し情報（forward-looking-statements）」を含みます。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社または当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。
- これらリスクや不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動等、一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- 投資判断を行う際は、必ず弊社が開示している資料をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断において行っていただきますよう、お願い致します。